

# イイズナ

*Mustela nivalis*

イタチ科

## 名前の由来

長野県の飯綱（飯綱）山で修験者が管狐（くだぎつね）と呼ばれるイタチに似た獣を使って呪術を行っていた。東北地方ではそれらの山伏を「飯綱使（いづなつかい）」と言ったことなどが語源となっている。別名コエゾイタチ。漢字名：飯綱

## 形態的特徴

頭胴長（鼻先から尻尾の付け根まで）：オス160mm、メス156mm、尾長24mm。夏毛の背中では茶色で腹部は白色。冬毛では全身白色。（→興味深い話の項参照）

類似種と見分け方：エゾオコジョ。

オコジョは尾の先に黒色部があり、大きさも一回り大きい。



イイズナ



イイズナ。冬には真白になる

## 生息環境・分布

平地から山林、農耕地や海浜草原などにも生息する。

分布：国外分布は、北半球北部に広く分布。国内分布は、北海道、青森、岩手、山形に分布。北海道内では、全域に分布。十勝地方では、平地から山林、農耕地や海浜草原などにも生息する。

## 興味深い話

■小さな体の割にはどう猛で、自分よりずっと体の大きなウサギなどの動物を襲って食べる事もある。

■秋、体上面の褐色部に白いさし毛が現れ、徐々に数を増し、ごま塩状を経て、約1ヶ月半で全体が白い毛に変わる。

■3月半ば過ぎになると頭上から背部を通して尾部まで1本の褐色帯が現れ、それが徐々に下腹部へ広がり、5月上旬には完全な夏毛になるという。冬毛へ向かう時と違いごま塩状にはならない。

## 食性・他生物との関わり

肉食性で小鳥、ネズミ等の小型哺乳類、爬虫類、両生類、昆虫といった小動物を食べる。

基本的に捕食者であるが、希にタカ・フクロウ類等に捕食される事もあるかもしれない。

■9月上旬に1カ所で連続5頭の若い個体と成獣1頭がわなで捕獲された例があり、このころまで親子は行動をともしにするのではないかとされている。しかし正確には不明。

■北海道ではホンドイタチやエゾオコジョが移入されたミンクに追われ生息域を狭めているといわれるが、イイズナはほとんど影響を受けていないと言われる。

■十勝地方のアイヌ語名は不明。

## 繁殖生態・寿命

発情期は3～4月、5～6月に3～7子を産む。

寿命は2～4年。

## 配慮事項

主に樹林などに普通に生息していると考えられるが、捕食者であり、餌動物の生息も大切な条件であろう。

## 生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
出現期	■											
交尾期			■									
出産・育児期					■							

## 参考文献

「日本の哺乳類」阿部永・石井信夫・金子之史・前田喜四雄・三浦慎悟・米田政明 東海大学出版会 1994

「北海道 森と海の動物たち」エコ・ネットワーク編 北海道新聞社 1997

「日本動物大百科 1 哺乳類 I」日高敏隆 監修 平凡社 1996

「動物名の由来」中村浩 東京書籍 1981

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)  
草花

(外来種)  
草花

哺乳類

(水辺)  
鳥類

(草原・樹林)  
ワシ・タカ